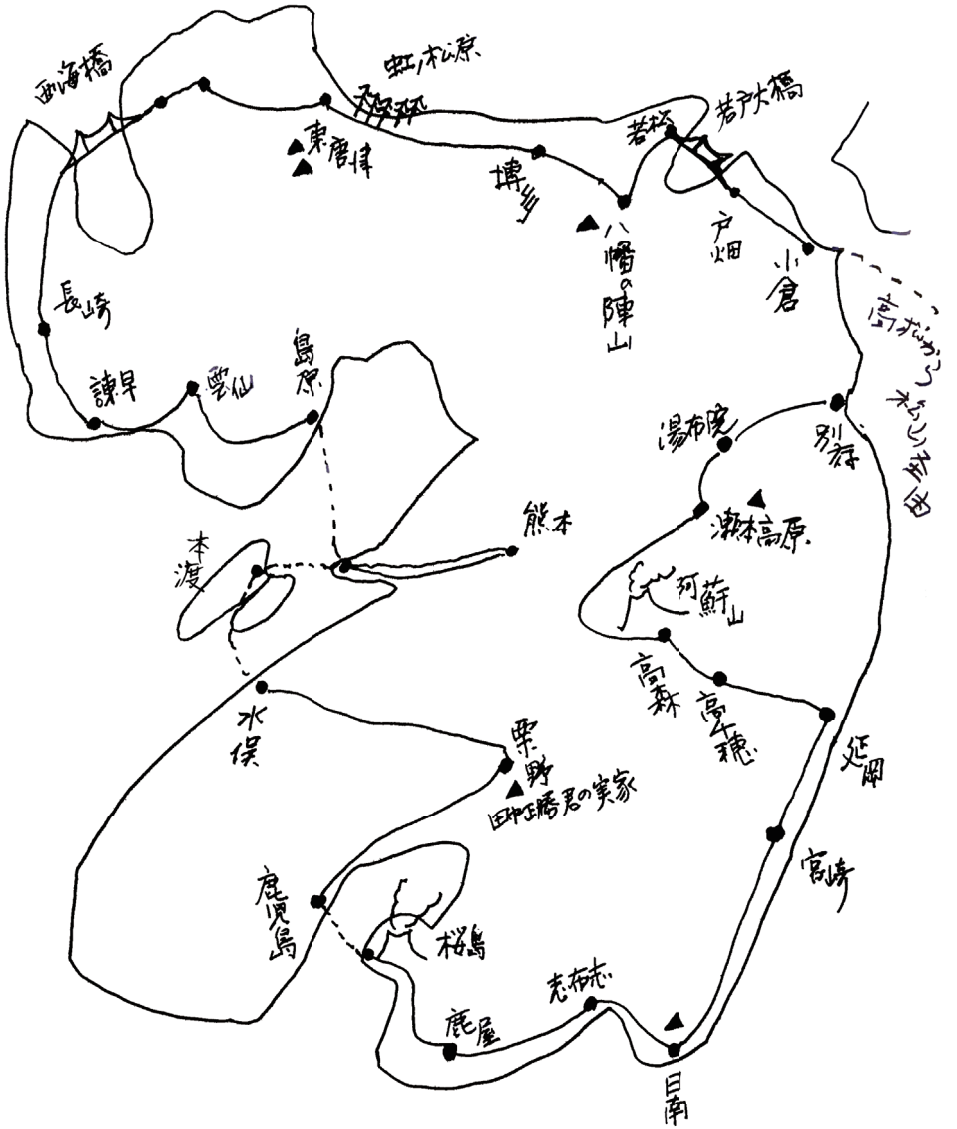

西海橋
虹ノ松原
唐津
博多
若松
若戸大橋
八幡の陳山
戸畑
小倉
長崎
諫早
雲仙
島原
湯布院
別府
熊本
本渡
阿蘇山
高森
高千穂
延岡
水俣
栗野
田中正睦君の実家
宮崎
鹿児島
桜島
志布志
鹿屋
日南

二十日　雨

昭和四十年十二月二十日大学の冬休み、小雨徳島の実家にて朝七時頃布団の中で雨が降っているのに気付く。九州一周の旅に出発するのを母親は心配して中止にしたらと言っている。自分も半ば諦め、天候の加減を見に起き出す。空はどんより曇り冷たい空気は出発を阻むかのよう。心の中は予定通り出発したくて落着かない。午前十時頃小雨になる。今だとばかり我が家を飛び出す。目的地は香川県高松港だ。先ず実家近くの吉野川の橋を渡る。此の橋は河口に近い為川巾広く橋の全長一〇七〇メートルもある。川巾を満々と流れる景色は悪天候を吹き払う感じだ。間もなく徳島唯一の飛行場が右に見えてくる。前方に鳴門の町が近づく。市内を過ぎ海岸線に出る。辺りは塩田が広がり、眼前には海を跨いだ釣橋が鮮やかな朱色で

高松港のあけぼの丸

横たえている。その後はすぐ香川県に入る。休む事なくかなりのスピードで海岸通りを景色を眺め乍ら高松港へひたすら走る。二時頃には港に着く。早速九州までの船の手配に掛かる。予定の別府行きは自転車は乗せないとの事で小倉行きの便に変更になる。これでコースも急遽逆廻りに変更する。午後四時あけぼの丸に乗船する。当然一番安い二等船室に入り寝袋を拡げすぐ寝ることにする。正月の帰省客らしき七名程であったが、途中松山港で大勢乗って来て大変混みあった。松山港から乗り込んだ同室の見知らぬお爺さんが長旅に出る私に自分の畑で作ったみかんを沢山持って行きなとくれる。ありがたくいただく。見知らぬ人達と会話をしながら眠りにつく。

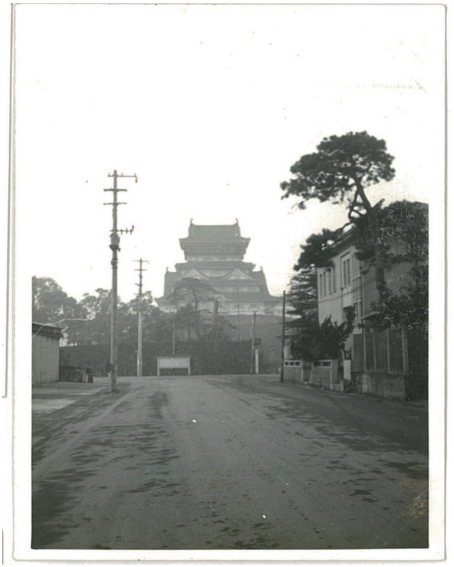
二十一日　晴

小倉港に早朝六時五十分着。さすがに寒い。自転車を受け取り小倉駅に向う。駅前の定食屋にて朝食。その後大学の同級生超美人の阿部珠世様の実家をさがす。阿部医院がそれ。立派なお屋敷である。たずねると、玄関から奥の室に行くのに右側中庭を見ながら廊下を、しばらくして珠世様が東京より帰り面会する。偶然である。更に私が東京でアルバイトした給料を持って来てくれていた。阿部医院の御屋敷と珠世様と別れ、小倉城へ。

記念の写真を撮りその辺りを散歩し、戸畑に向かう。すぐ若戸大橋が戸畑駅の裏に雄大な朱

色の橋桁を見せる。大橋を見るのは二度目だが大きさと美しさは何度見ても立派だ。天気もよく昼頃までこの辺りの写真を撮ったり、大橋の下で休み乍ら辺りを見物する。大橋は出来たが下の海では従来の渡し舟が交通の足として若松と戸畑間で盛んに利用されている。いよいよ出発次は八幡の陣山の国道沿の親類の家。武野マセ様の家へ。国道三号線にコロナ電業社のカンバンが目印。マセ様は年輩ですが、私の母親のいとこのようで、子供の頃母親の実家東唐津へ里帰りの時必ずここに泊って帰っていたのでおぼえていた。もう御主人様は亡くなっていたが店先でタバコの販売をしていた。今夜はここに泊る事にした。この辺りは巨大な会社八幡製鉄所や安川電機の町関連の企業も多く、近くの黒崎駅商店街は大変な賑わいである。

小倉駅



小倉城

二十二日　晴

八時に起き、マセ様の朝食よばれ小遣いもいただき出発。今日の目的地は母親の実家東唐津へ。国道三号線を博多に向う。黒崎をすぎたころよりすごい霧の中危険な状態になる。五〇メートル先が確認できない。慎重にペダルを踏む。博多に近づくと道路巾が広くなり博多に入る。福岡で一番賑やかな天神通りを自転車を押し乍ら町中を見てまわる。さすが九州一の都会だね。町中には美人も多い活気もある。これで疲れていなければ博多の町を見てまわれたが、朝から走りっぱなしで疲れもあり道中先が遠いので、天神通りを唐津方面へ。まもなく福岡城跡の石垣と堀と平和台球場が左側に見えてくる。

福岡城跡と平和台球場

♬♬酒はのめのめのむならばー

母里大丘衛の長屋

大濠公園

城跡の入口に屋台の焼芋を買い昼食にする。この頃より天候があやしくなる。これは大変、目的地東唐津へ急ぐ。遠く虹ノ松原まで海岸線は玄海国定公園に指定されて、道路は整備され、海岸線の景色は天候が悪いので色の濃淡と水平線と海岸線の曲線と沖には点々と島々と船の航行が見え自然の美だ。まもなく前方に虹ノ松原が霞んで見え出した。この頃より雨が降り出す。全力でスピードをあげる。松原まで来た時はびしょぬれにになる。松原の中を一気に東唐津駅に飛び込む。松原の雄大さは想像以上だ。山手側には有名な鏡山があり、そこからの眺めは玄海灘を上から見るのだから素晴らしい景色だと思う。夏は定期バスが頂上まで運行しているとのこと。松原の海岸線の沿線前方に高台の突端が舞鶴城跡がある。今、天守閣復元工事中である。この海岸線手前にある母親の実家浦方家に泊る。家の裏の木戸をあけると海である。砂浜に家が建てられている。子供の頃何度も来ているので家はすぐわかる。ここで雨の為二泊お世話になる。

浦方様の子供と

母の実家の木戸あけたら海

二十三日　雨

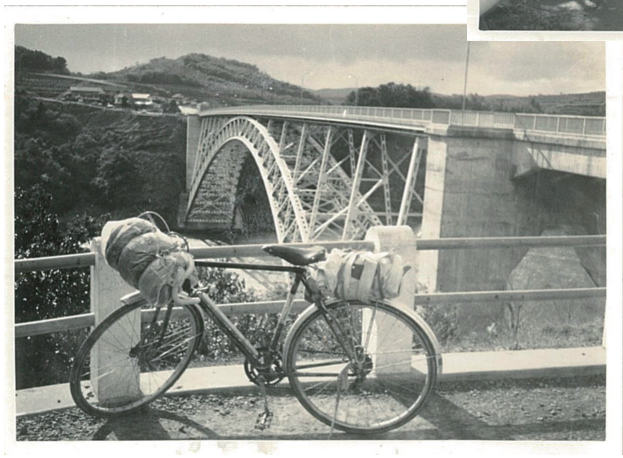
二十四日　雪

午前八時起床し、外は雪が降っている。前日休んだ為日程がなく、雪の中を長崎に向け出発する。強い風と雪が顔面に叩きつける。片手でさえぎりながら重いペダルを踏む。伊万里に入ると増々ひどくなりとうとう靴の中まで水が入り冷たくなる。佐世保を過ぎるとやっと小雪になるが寒さは厳しい。佐世保から西海橋まで道路は良く整備され広い両側には等間隔にシュロの樹が前方にのびて南国の雰囲気を作っている。すぐ西海橋に着く。想像より意外に小さく感じた。余りの寒さに小さく感じたか。その後長崎市まで悪路をひたすら走る。やっと日暮れに到着する。

伊万里付近の雪の中

佐世保に入る

西海橋



平和公園、浦上天主堂を見て今夜の宿をどうするか考えた。旅館、ホテルは資金的に無理。ユースホステル（ＹＨ）なら安いのを思い出し、長崎駅ならユースホステルの本があるだろうと駅に急ぐ。あった。すぐ電話で予約すると夕食は終わったから泊りだけならと手配する。駅から近くで助かる。今夜はクリスマスイヴの為町は大変な賑わいである。夕食はユース近くの定食屋に入る。カウンター向側に超美人三姉妹。こんな定食屋みたいな所に超美人が居るとはさすが長崎か。何年か後、時間待ちで入った我が田舎徳島駅近くの喫茶店でこの三姉妹の一人に偶

平和公園

浦上天主堂

然出逢う。勿論長崎のユースの近くの食堂に居たことを確認したが、こんな偶然あるのかふしぎふしぎ。その後ユースに入り風呂で旅の疲れを癒し、長崎市内へ。一番賑やかな浜市、観光通り商店街を散歩。おどろいた。路面が装飾され他の地方では見られない立派で美しい商店街であった。ユースに帰ると同室の人と楽しく話しながら寝る。

二十五日　晴

午前八時ユースを出発する。昨日からうって変わり今日は朝から快晴。気分よく朝の長崎市内見物しながら、定番の大浦天主堂。グラバー邸へと向かう。途中唐人町のレンガ造りの建物が眼に入る。高台にあるグラバー邸からの眺めは長崎湾が眼下に一望。大きな船や小さな船の航行。雄大で奇麗な風景チョッピリ異国ムードの長崎を確認して次の目的地。雲仙、島原へとペダルを踏む。長崎市内からどの方向に向うも数キロの坂を越えなければならない。頂上のトンネルを過ぎやっと脱出する。

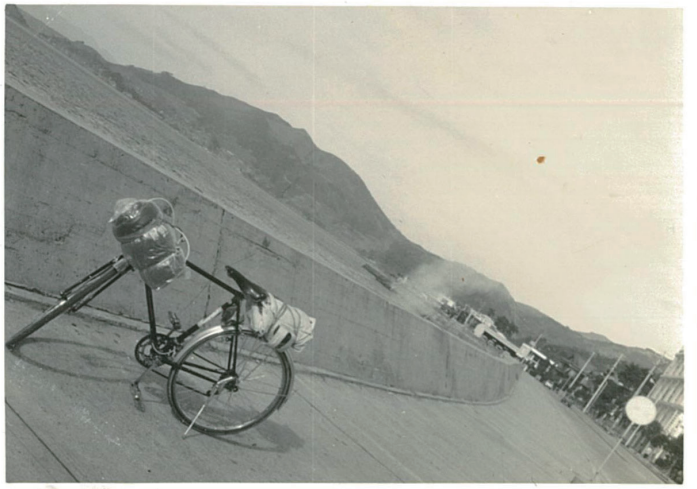
グラバー邸

グラバー邸より

昨日の天候が一変暖かい春となる。諫早を通過すると広々とした田園の中を一本の国道がはるか前方に延びている。道の両側に等間隔の南国特有のシュロの樹が遠くまで続く。ペダルも軽い。愛野町で道が左右に分かれる。左へは海岸通りの島原まで二九キロメートルとある。右は雲仙まで三〇キロメートル急な山登りあり。我自転車は右雲仙を目指す。しばらく行くと、小浜温泉がある。有明海に面し至る所から煙が吹き上げている。ここから雲仙への登り口。頂上まで急な一五キロメートルの山登り。途中天候がいいので上から有明海のキラキラ海面の反射を眺める。間もなく雲仙温泉街に着く。頂上はさすがに寒く樹氷だらけ。地獄巡りを見物して、今日の宿泊地島原へ向う。すぐ左手にゴルフ場が。こんな頂上に大変古い有名な雲仙ゴル

フ場を見ながら一五キロメートルをペダル踏まず一気に下るが寒いこと手足が凍る。先ず島原港へ明日の渡し船の発時刻を調べ、町を散歩しながらＹＨ幸利屋に着く。

諫早国道雲仙へ



小浜温泉

雲仙へ登り途中天然記念物の杉

雲仙登り途中有明海のキラキラ

本日は好天に恵まれ雲仙までの景色は国定公園なので道路の整備が最高だ。雲仙にも真新しいユースホステル（ＹＨ）ができていた。一般者シーツは七〇〇円二食は飯は喰べほうだい。会員は五〇〇円である。温泉は天然温泉豊富だ。参考まで。

雲仙の町頂上

雲仙地獄巡り

二十六日　晴

島原港朝七時二十分発。朝一番の三角行きに自転車と共に乗り込む。約一時間の有明海の遊覧。三角に着く。これから熊本市内に向けて海岸線をつっ走る。昨日の山登りの疲れかペダルが重い。昼頃水前寺公園に。その後市内見物と熊本城へ一応見物を終えまた三角まで引返す。三角から小さな舟で有明海の天草諸島を巡り、午後四時頃下島の本渡に着く。

島原港

水前寺公園

熊本市内

熊本城

早速キリシタン墓地を見てまわる。地元の高校生と知り合い他の墓地やメガネ橋や天草の乱激戦地など案内してくれた。この頃より将来天草諸島を橋で結ぶ工事が始められている。今日の宿ＹＨ苓洲館に落ち着く。偶然に長崎のＹＨで逢った人達と再会し同室の五人となる。大阪人、静岡人、東京人、川崎人、徳島人のメンバーとなる。夜は各人の九州旅行の予定を。楽しい会話で遅くまで続く。

キリシタン墓地

天草の乱激戦地

天草キリシタン墓地より本渡市内

二十七日　晴

今日の目的地は同級生の田中正勝君の実家へ。鹿児島県姶良郡。午前七時五十分発本渡から水俣行の渡し舟で約二時間三十分の遊覧を楽しむ。水俣病で有名な水俣に十時二十分着。ここで同行の二人と分かれる。彼達は鹿児島市内と指宿の見物に元気に旅立った。電車で。自分は自転車で田中家を目指す。内陸に向って出発するとすぐ山登りになる。地図には一級国道と記されているが、これ以上の悪路はない。自転車にはほとんど乗れず汗をかきながら押し上げる。その中たまに自動車が砂埃りを残して走り去る。砂埃りかぶりながらの山登りが続く。途中一軒家の雑貨屋で喰べ物を少し置いてたので昼飯とする。店番の娘さんこれまたビックリこんな山奥で動物

水俣駅

しか住んでない所で超美人。思わず聞いたね。そしたらこれから行く方向の薩摩大口高校の生徒との事でした。思い出に残る美少女でした。

更に山登って栗野町の田中様の実家を尋ねたずね午後四時やっとの思いで到着。顔面は埃だらけ、眼は赤く充血し、田中様の父上様と母上様も突然の訪問に驚きの顔。すぐお風呂の用意と食事で夜遅くまで父上様の話を聞きかせてもらう。鹿児島人の父上様は焼酎を燗をしながらの話である。

薩摩大口までの山登り

薩摩大口駅

二十八日　晴

昨夜は突然の訪問で御迷惑かけお世話になりました。午前八時食事しながら鹿児島市内の名所の説明、見学の順序を教えていただきお礼を言って九時市内へ向け発つ。昼前には海岸線に出る。今日も天候は絶好の観光日和。左前方に不気味に噴火する桜島を眺めながらつっ走る。市内に入るとすぐ磯公園に到着。約三百年前島津二十代光久公が別邸として建てた跡である。現在は遊園地としている。その隣は島津家七百年の史的資料また工芸品を陳列した尚古集成館

城山の展望台より市内

隆盛像

照国神社

城山 YH より桜島

が在る。例えば幕府から出された西郷、平野次郎、高杉晋作の人相書の逮捕状など一時間程見学し、いよいよ鹿児島の町へ。磯浜ＹＨに自転車を預け歩いて市内見物する。先ず東郷墓地↓鹿児島駅へ。さすが南国だ。商店の店先にヤシの実、ザボン、パイナップルがずらりと並んでいる。それから山の方へ南洲墓地。西南の役の戦死者の墓をここに集めたもの。更に城山鶴丸城跡の登口に南洲終焉の地。流れ弾に当りここまで逃げてきて切腹した場所。更に登ると城山中程に南洲洞窟がある。西南の役に於いて薩摩軍の最後の本営として使用した場所。更に登り頂上の展望台に出ると市内と桜島が一望できる。山をおりて西郷隆盛像と照国神社を見て、町の繁華街天文官通りを散歩する。暮もせまり大勢の買い物客で賑わっている。しばらく町中を見物して宿舎に向うが途中甘い物が欲しくなり、お汁粉を喰べて宿舎磯浜

ＹＨへ。夕食は三〇人位の旅行者と一緒に食事をする。その場で、食事を作るおばさんが実物を見せながらしてくれる桜島ダイコンの説明を聞く。でかくて丸いそれはバスケのボール位ある。食後は見知らぬ者同志で会話して明日はみな別々の行動になる。この磯浜ＹＨは島津家の別邸で昔のままの古い木造建築で正面に海と桜島が見える最高のＹＨだった

鹿児島駅

二十九日　晴

八時五分発桜島行フェリーに乗る。今日も日本晴れだ。空は噴煙あるのみだ。噴煙の右手より大きな太陽が登り海に反射して気持ちのいい朝だ。十五分程で桜島に着く。上陸し溶岩道路をしばらく走るが火山の凄さを見せ付けられる。林芙美子の碑が見えてくる。桜島をバックに作られている。その後垂水市までは海岸線のいい道路が続くが、その後の鹿屋市から志布志ー串間市ー日南まで悪路の連続である。自転車は舗装されてないとスピードが出せないしパンクの恐れで走れなくスピードダウンさせる。一級国道でもこの時代としては田舎はこんなものかとひたすらペダルを慎重に踏む。志布志の日南海岸国定公園出ると砂浜はベージュ色、海は真青に輝く太陽に照らされて見事な景色である。道路は依然として悪路が続く。日南市に

フェリーからの桜島

入った頃日没になる。今日の目的地宮崎市までが届かずそのまま行くか迷ってたらＹＨの看板発見。こんな所にＹＨが日南市大堂津猪崎鼻ＹＨとある。立寄って申し込むと気持好くＯＫ。このＹＨはできたばかりの新しい宿舎で案内ブックにはまだ記されてない。親切な管理人様の奥様と娘さんで運営していた。泊り客は一〇名位で食後管理人様の家族を交えストーブを囲み夜十一時まで楽しくミーティング。その中で日の出が最高と言う猪崎鼻岬がすぐそこと教わる。

林芙美子の碑　バック桜島

油津　猪ノ鼻崎岬　YH 猪ノ鼻崎

三十日　晴

朝早く起きて朝日を見るため丘の燈台へ登り十分程待つ。朝日は東の地平線からゆっくり顔を出す。八時再来を約束してユースの家族の皆んなに見送られ出発する。悪路は前日の続きだ。この辺りはまだブルドーザで道を作ってる所もあり整備できるまで待って通行する状態である。しばらく行くと完全舗装道路となる。いよいよ日南の観光地だ。海岸線を前方より三人のサイクリング旅行者とすれ違う。互いにこんにちはと挨拶を交す。その後サボテン公園に着く。この辺一帯がいろいろなサボテンの山である。道路端は強大な熱帯樹が続く眼下には波状岩を見下ろしながら今までの遅れを取り戻す為スピードアップする。青島に昼頃着く。熱帯樹の繁った小さな島である。さすがに観光客が多い。この辺は子供の国があり南国の雰囲気を作っている。途中日本一周

サボテン公園

の青年と遭遇する。東京を十二月六日に出発しているとの事。荷物沢山積み自転車はガタガタ状態で宮崎まで同行。途中パンク修理道具は自分が持っていたので直してあげる。大分時間をロスしてしまう。彼は日向までとの事。自分は延岡までなので彼と分かれ急ぐ。日向市に入った時は日はとっくに暮れ寒さは厳しさを増し、肩と足の先が痛む。七時頃道沿いの灘食堂に（地名日向市門川町）飛び込む。食事とストーブで暖まる。食堂のおじさまが餅を取り出し焼いてごちそうになりながら話してくれる。一時間位暖まって、夜の国道を電池片手に走る。九時やっと延岡に到着する。寒い寒い。さて安い旅館を探す三五〇円也でゲット。

青島

三十一日大晦日

八時三五〇円のホテルを出発する。すっかり正月の化粧の整った町中を高千穂へとペダルを踏む。五ヶ瀬川沿を山登りとなる。途中珍しく女性サイクリン旅行者とすれ違う。なかなかの美女だ思わずオス！と挨拶入れる美女はこんにちはと声を残して坂を下っていった。悪路を登り下りして進む。天の岩戸神社に二時頃着く。本神社や天安河原の仰慕。その他中には国宝に指定されている石刀の出土品など見学し、高千穂に向う。谷間におり滝や神秘な雰囲気の漂う水面。そこにはボートも浮んでいる。今日の宿舎は大利屋ＹＨへ。午後六時全国から今日の大晦日をねらって集まった三〇名位の人達と一緒に食事する。中に北海道からの二人組女性。九州は暖かいと思い来たが寒いので驚いたと言う。食後全員でレクリエーション。その後ＮＨＫ紅白を楽しむ。十

高千穂峡

一時頃から元旦にかけ日本で最初に神様が降りたった天の岩戸神社へ神楽を見に行く。場所は洞穴又は洞窟のような所へ。本日は特別に天鈿女命の舞と手力男命の舞を他二番の四番を見せてくれるとの事である。この神楽は本来十一月下旬頃から一月にかけ農家で夕方頃から始まり翌日の昼頃まで続ける。この神楽をする時は、舞も男だけ、家事一切男がするとの事である。

天の岩戸神社

神楽殿（天の岩戸神社）

夜中の寒い中一〇〇人程の人達が熱心に説明を聞きながら鑑賞した。神楽が終わると元旦の〇時十五分。その場でお酒を戴き初詣を済ます。偶然に大晦日と元旦を遠い高千穂の天の岩戸神社迎えられることは二度ないかも知れない。

昭和四十一年元旦　晴

ＹＨ大和屋を午前九時出発。寝不足の中阿蘇に向う。今日は阿蘇の先瀬ノ本高原で泊る予定で走る。前日の続きで山登りの悪路舗装なしの道。途中高千穂から高森へ行く軽トラに乗せてもらう。曲がりくねった山道を高森まで夕べの寝不足が大変助かった。これより阿蘇まで近道の右廻りと左廻りとに分かれる。予定の近道は崖崩れの為通行止になり仕方なく遠回りの左へ。

高森から阿蘇をバックに

道は相変わらず舗装なしの悪路が続く。スピードは出せない。空は雪模様ちらちらと顔面を撫でる。ほとんど人がいない阿蘇の麓をのろのろ進む。昼頃やっとの思いで九州横断道路に出た。さすがと言いたい所だが普通の舗装道路と変わりないが助かる。景色は最高。遠く外輪山の頂上まで続いている。観光バスや乗用車が点々とつらなっている様を一望に眺めあの頂上までこの自転車で登るのか気が遠くなる思いだ。それでも長い長い外輪

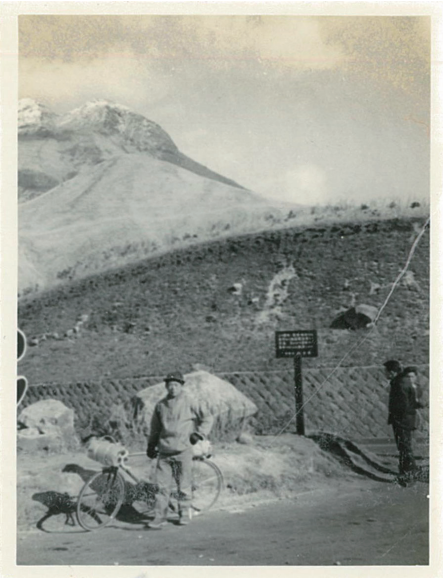
山の坂道を登りきると前方の山の頂上に雪のかぶった山が久住山。その麓に瀬ノ本高原と称し、樹木はなく、黄色の枯草一面の広々とした大自然の中を観光バス、乗用車の列や景色を見遣りながら我が自転車は走る。自動車はこちらを珍しそうに眺めながら猛スピードで走り去って行く。久住山の手前料金所左に三愛レストハウスの美しい建物が在る。そこを左に曲り瀬ノ本高原ＹＨに着く。夕方六時三十名程の宿泊者と食事をすませる。ここは高原の為気温がマイナス一七度位まで下がるのでバイクのオイルも凍ることも。寝る時は全員に湯タンポが借りられる。前日余り寝てないので早く寝る事にする。

二日　晴

朝日が高原の上に真赤な大きな顔を出す。気温は氷点下十数度の寒さの中八時出発する。久住山の牧ノ戸峠を登る。頂上は樹氷がきれい。道路端には残雪も。その後いくつかの峠を越え二つの池のある由布院温泉から下りを飛ばして湯布院町に入る。前方は黄色一色の鶴見岳がある。眺めのいい山だ。今日は天候がいいので別府方面から家族連の自動車が非常に多く山の中

九州横断道路を別府へ

腹にところどころに車を停め景色を眺めたり、記念写真を撮ったりのラッシュのドライブインである。曲り曲り頂上に辿り着く遥か眼下に別府の町と海が見える。やっと終点まで来たかと感じた。体の緊張が緩む。これから別府の町まで急な下り坂だ。途中地獄巡りを見物する。正月の為か多くの人で賑わっている。午後二時海岸通りの別府港に着く。高松までの自転車の運搬を交渉するが船では送れないとの事で、駅に行き手配を済ます。一段落してリュックを背負い正月の賑やかな商店街を見て廻る。観光の町だけに土産物の店が軒を連ねている。最後は温泉の町別府やから十四日間の旅の疲れを癒す為銭湯へ。本物の温泉なのだ。



別部へ最後の峠 これから下り坂

別部に着いたあたり温泉煙

後記

十二月二十日徳島を出発し、前半は天候が悪く苦しい旅だった。長崎からの後半は快晴の連続で全般的に恵まれた旅だった。九州は殆んど初めての土地が多く、期待で胸のふくらむ思いだった。名所、旧跡、自然、各地の人々、こんな経験またできるだろうか。これが将来役に立っているだろうか。

河野　晃

一九四二・五・一五　生